

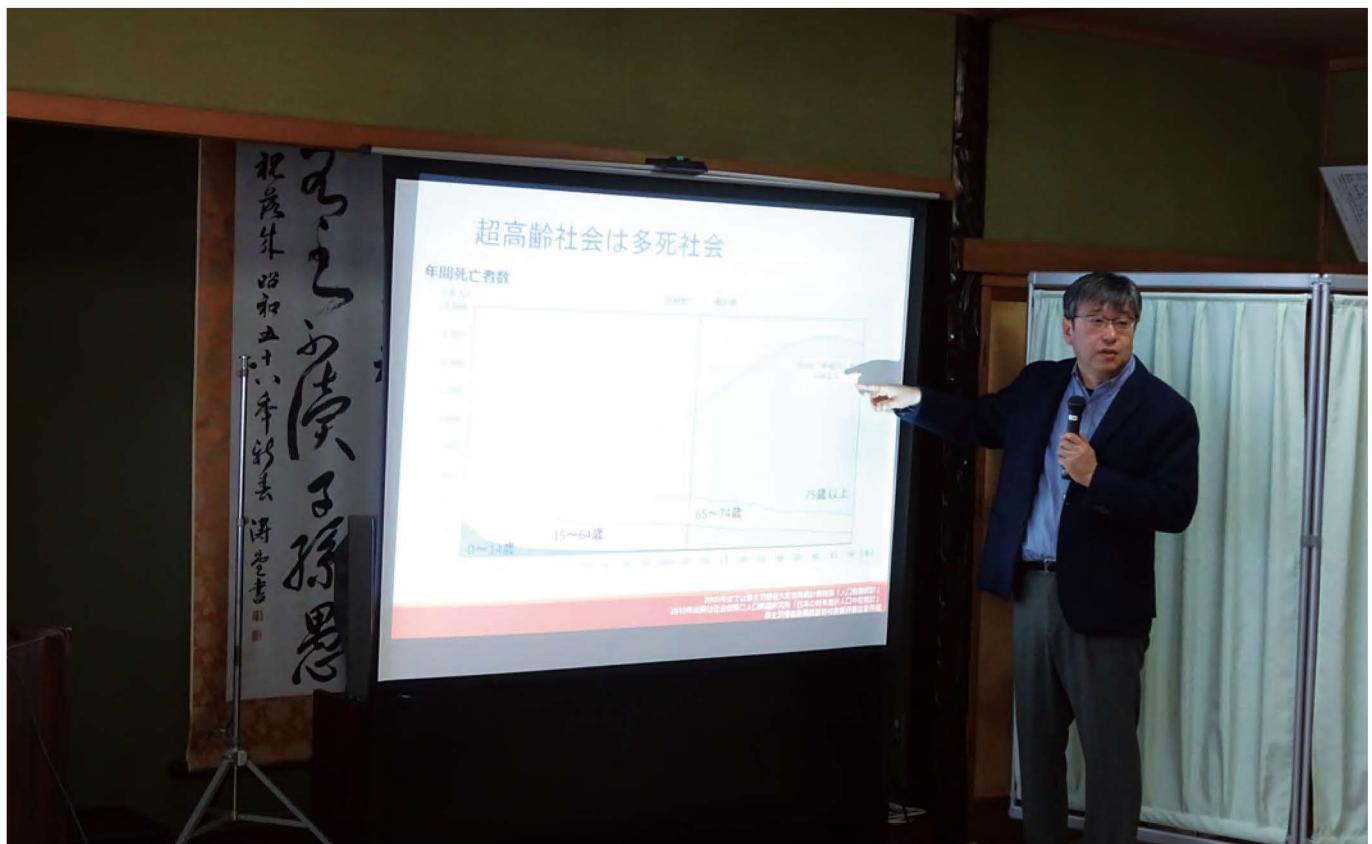
Awara News

あわらニュース vol.76

平成30年12月3日発行

「多くの人の笑顔のために」

- 重症心身障がい、難病、長寿医療を柱とし、地域に密着した専門医療を提供します。
- 社会的なアプローチを組み入れ、患者中心の心あたたまる医療を実施します。
- 臨床研究、教育研修、安全管理をとおして、常により質の高い医療を追求します。
- 公益性を確保し、効率的で自立した病院経営を推進します。



第5回あわら病院市民公開講座開催

地域医療連携係長 坪田 希

10月20日(土)、波松集落センターにて「第5回あわら病院市民公開講座」を開催しました(後援:坂井地区医師会、あわら市)。

今回は2題の講演および「高齢者と薬の問題(ポリファーマシー)」のポスター掲示を行いました。講演は、まず認知症みまもり隊(当院看護師)より「認知症!～その時あなたはどうする～」と題し、身近な事例を使った演劇を行い、認知症の家族との関わり方について考えていただきました。つづいて津谷病院長より「人生のエンディング～あなたの選択は～」と題し、人生の最後をお迎えになるときのために、ご家族がご本人の意思をどのように確認しておくか、周りの方はどうのような話し合いをしておくべきかを、具体的な状況設定を行いながらお話ししました。講演中は、聴講者に○△×の札を挙げて講師からの質問に答えていただくという参加型の形式を取り、皆さん大変真剣に悩まれていました。

ご参加いただいた市民の皆さん、ありがとうございました。

ポリファーマシー(高齢者と薬の問題)



薬剤科長
杉山 喜久

高齢者は病気の数が増えるため薬の数も増えていくといわれています。ここでポリファーマシーとは、臨床的に必要以上の薬が投与されている、あるいは不必要なお薬が処方されている状態です。一般的に6種類以上を示すことが多いですが、併用するお薬が何剤

以上でポリファーマシーであるという明確な定義はありません。当院では、平成28年度からこのポリファーマシーの改善に取り組んでいます。

今回の市民公開講座でポリファーマシーについてポスターを掲示して思ったのですが、患者さんはポリファーマシーという言葉も耳なれず患者さん同士お薬を服用していることがちょっとしたコミュニケーションであったり、安心材料であったりしているようにも感じられました。「自分

で服用しているお薬が多いのでは?」と考える機会があまりないのかも知れません。特に高齢者ではお薬の種類が多いことだけでなく加齢によって肝臓での薬の代謝(分解)の低下や腎臓からのお薬の排泄の低下で薬が体から出ていく時間がかかるようになり効果が強くなりすぎることがあります。そのためには患者さんにお薬手帳をうまく活用してもらうことが必要となります。病院や薬局で手帳を分けずに1つに取りまとめ同じ薬が出ていないか、飲み合わせが悪くないかかかりつけ薬局で確認してもらうことが必要です。また、このポリファーマシーの対策は多職種や他の医療機関及び地域を超えた協働も必要といわれています。当院では試行錯誤しながらこれからもこの問題に取組み続けていきたいと思います。

人生100年時代と言われています。うまく薬と付き合って元気に活躍し続けようではありませんか。



リウマチ科における発熱の診療

院長 津谷 寛

リウマチ科というと関節リウマチや、膠原病と呼ばれる全身性自己免疫疾患を思い出される方も少なからずおられ、リウマチ科は比較的まれな病気を扱う外来のように思われるがちですが、外来に受診される方の症状から考えるとそうでもありません。リウマチ科を受診される方の大半は「発熱」と「痛み」を訴えられている人であり、この二つの訴えは医療機関にかかる最も多い理由であるからです。特に、発熱に関しては、発熱をきたしやすい高齢者においてリウマチ科の役割が大きくなっています。

高齢になると発熱しやすいと言うと、高齢者は炎症反応が鈍くなり熱は出にくいのではないかと反論が来そうです。たしかに、年をとるとウィルスや細菌に対する特異的な免疫は弱体化し、貪食細胞の機能も落ちていき、肺

炎などにかかっても発熱がないこともあります。しかし、例えば歯周病、喫煙習慣による慢性炎症を起こすタンパク質の出現、コレステロール、尿酸、ピロリン酸カルシウムなどの急性炎症を起こす結晶の出現、加齢による遺伝子の構造の変化による炎症反応の調整の異常など、加齢により炎症反応の要因の増加や制御の異常が起こってきて、発熱をきたします。

リウマチ科ではこれら発熱の基礎となる病態の理解のもと、様々な疾患の診療経験を生かして、原因不明の発熱が続く方に対して、その原因を明らかにし、軽快・治癒へと導く診療をおこなっています。



地域医療連携施設のご紹介

あわら病院と連携している医療機関等をご紹介します

はまだ内科クリニック



はまだ内科クリニック

〒910-0842 福井県福井市開発1丁目203 TEL(0776)97-5820

福井市開発で開業して約10年になりました。近隣の基幹病院と連携をとりながら、これからも信頼されるクリニックを目指していこうと思っています。今年の春から息子(救急総合内科、リウマチ膠原病内科)が診療を手伝ってくれるようになったので、さらに診療の幅を広げていこうと思っています。あわら病院の先生方、スタッフの方々には、消化管内視鏡検査、エコー検査、急な症状の時の対応など多くのことでお世話になっており感謝しています。診療レベルの高い信頼できる医療機関が近くにあることがどれだけ心強いことかと思います。今後ともどうぞよろしくお願いします。

院長 濱田 明

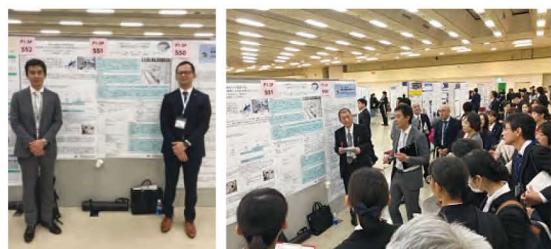
診療科目	診療時間	月	火	水	木	金	土	備考
内 科	9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	~12:00 休診日 木曜午後 日曜・祝日
	14:30~18:30	○	○	○	×	○	○	(13:00~15:00)

第72回国立病院総合医学会に参加して

庶務係長 西村 重之

平成30年11月9日(金)・10(土)両日、神戸国際展示場・神戸国際会議場(兵庫県神戸市)で行われた第72回国立病院総合医学会に参加しました。

私は今年2月の大雪時の対応をもとに、雪害マニュアルの必要性についてポスター発表を行いました。当院からは他にポスター発表6題およびシンポジスト、座長など多くの職員が参加しました。当院と同様に他の施設からも、数多くのポスターなどが出展しておりました。診療や患者ケアに関することから、研究や病院運営まで多岐にわたっておりました。他施設や他部門での取り組みを拝見することができ大変貴重な経験をさせていただきました。



今回の経験を今後の業務に活かしていきたいと思います。

今年参加した新採用職員の感想を一部ですがご紹介致します。

- ・今回、総合医学会に参加させていただき様々な職種の方の発表を聞き、新たな見地を広げる発表も多々あり大変勉強になりました。貴重な体験をありがとうございました。(理学療法士)
- ・病院の目指す看護の方向性が分かりやすく口演して頂いてよかったです。(看護師)
- ・主に重心病棟で勤務しておりますが、呼吸器ケア、体位変換など個別性が高いと感じました。(看護師)



外来担当医表

(平成30年12月3日現在)

診療科		月	火	水	木	金
総合	内科	津谷 寛	津谷 寛	見附 保彦	見附 保彦	宮崎 晋介
	小児科	川満 徹*	川満 徹*	川満 徹*	湯浅 光織*	川満 徹*
専門	リウマチ			津谷 寛	津谷 寛	
	血液・腫瘍			浦崎 芳正*	大槻 希美	
	生活習慣病			鈴木 友輔(第2・4)		
	老年					棄田 敦(第1・3・5)
	神経			遠藤 芳徳(第1・3・5)		
	循環器	見附 保彦	見附 保彦			
	外科	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢
	整形外科	浅井 一希				
	眼科				吉岡 達也*	
	皮膚科		若原 真美			若原 真美
	地域ケア	鈴木 友輔				
	禁煙外来	見附 保彦	見附 保彦			

●受付時間8:30～11:30 ●黄色枠は予約制 ●*印は午後診察 ●休診日／土・日・祝日・年末年始

※皮膚科の診察は、火曜日・金曜日の午前中(受付時間8:30～10:30)です。

※神経内科の診察は、第1・3・5水曜日(受付時間8:30～11:30)です。

感染管理便り

感染防止対策室 棄田 由香利

いよいよ寒くなりインフルエンザの季節がやってきましたが、皆さん予防接種はお済でしょうか？

予防接種とは、人の免疫の仕組みを利用し、病気や感染症の予防に有効であると確認されたワクチンを接種することによって、病気に対する抵抗力(免疫)を高める方法で、「個人を守る」と「社会を守る」の2つの役割があります。

予防接種には、法律に基づいて市区町村が主体となって実施する「定期接種」と、希望者が各自で受ける「任意接種」があります。市区町村によっては補助が受けられる場合もあります。

現在日本では麻疹・風疹・インフルエンザなど様々な感染症が流行し、予防接種の重要性が報道されていることで社会の関心も増しています。この機会に病気や感染症について興味を深め、公的補助を上手に使い、健康管理に役立ててほしいと願います。



独立行政法人 国立病院機構 あわら病院

福井県あわら市北潟238-1 TEL.0776-79-1211(代表) FAX.0776-79-1249
(地域医療連携室) TEL.0776-79-1212内線(785) FAX.0776-79-1261
URL <http://www.awara-hosp.jp/>

【診療科】内科、小児科、外科、皮膚科、血液・腫瘍内科、リウマチ科、神経内科
老年内科、循環器科、整形外科、眼科、リハビリテーション科

【病床数】172床

【教育】日本内科学会認定教育関連施設、日本血液学会、日本リウマチ学会認定施設

交通のご案内

えちぜん鉄道「あわら湯のまち」駅より(5km)
乗合タクシー(デマンド交通) [事前予約が必要]

JR北陸本線芦原温泉駅より(10km)
乗合タクシー(デマンド交通) [事前予約が必要]